

ジョイント・フォーラムを開催しました

3月13日(木)、当センターで“明日の丹後テキスタイルを考える”をテーマにした「経営者育成セミナー」と「繊維シンポジウム」を『ジョイント・フォーラム』として開催しました。産地若手機業経営者など40名を超える参加者は、最前線で活躍のトータルコーディネータと夢のシルク開発者のお話の中から、販路開拓や新商品開発への糸口を見出そうと熱心に耳を傾けていました。

「経営者育成セミナー」では、丹後織物ルネッサンス事業等で御指導いただいている(株)デザイン プラザ マックスの越智和子氏が「共感するものづくり ～創り手と使い手を結んで～」と題して講演。自社のブランド展開やデザイン、丹後機業の取組事例などを通し、“ライフスタイルの分析・観測から、今の生活者に作り手の思いが伝わるものづくり”を提唱されました。

「繊維シンポジウム」では、信州大学繊維学部応用生物科学科の中垣雅雄教授から、飼育が簡単な蚕(カイコ)にジョロウ蜘蛛の糸を作る遺伝子を組み込むことで開発した夢のシルク「スパイダーシルク」のお話を伺いました。11%の蜘蛛の糸が含まれた強い生糸の開発過程や遺伝子操作のメカニズム、奈良県の靴下メーカーとの共同開発による丈夫な靴下の試作などの紹介を受けました。

現状では、繭が通常の3分の1程しかないこと、さらに蜘蛛の糸の成分の割合を多くすることなどの課題があるようです。しかし、今日まで私達が全く目にしたことのない生糸であり、衣料用以外にも医療・宇宙・航空機分野への可能性を示唆いただきました。



スパイダーシルクの可能性を紹介する中垣教授

「JAPANブランド・丹後テキスタイル展2008」で丹後ちりめんなどを展示しました

京都府商工会連合会では、国のJAPANブランド育成支援事業の支援を受けて、2月6日から8日の3日間、フランス・パリで、「JAPANブランド・丹後テキスタイル展2008」を開催されました。

この展示会は、丹後が誇る織技術を駆使した丹後ちりめん、藤布、螺鈿帯、風呂敷、オートクチュール向け服地、インテリアなど約400点を品揃えし、海外市場の開拓と日本の伝統文化の普及を目的に、丹後地域の8業者が参画して実施されたものです。

期間中は、エルメス、シャネルのデザイナーを始め200名を超える方が来場され、展示品を念入りに手に取って、出展者に通訳を介して質問を重ね、じっくりと品定めをした上でサンプルを持ち帰るなど、商品に対する関心の高さを示していました。



会場の様子と展示品を手に取る来場者

【お問い合わせ先】

京都府織物・機械金属振興センター
企画連携課

TEL:0772-62-7401 FAX:0772-62-5240
E-mail:info@silk.pref.kyoto.jp